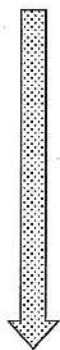


## 協同活動強化運動誕生

- 昭和51年(1976年) 第14回全国農協大会で協同活動強化運動実践決議
- 昭和52年(1977年) 協同活動強化運動全国推進本部を全中に設置  
福光中央農協(現福光農協)が協活実践モデル農協(重点農協)としてスタート(富山中央、魚津市、高岡市、福光中央)
- 昭和53年(1978年) 「水田利用再編対策」が始まり昭和61年まで続いた。  
この再編対策に併せ地域農業の振興を協議
- 昭和54年(1979年) 第15回全国農協大会で第2次協同活動強化3か年運動の実施が決議され、強力に取り組むこととした。  
〈運動の表現も3か年運動とし、全国の農協に取組みを促した〉
- 昭和55年(1980年) 協同活動強化第2次3か年運動が始まった。



### JA福光ではこの間継続して実施

尚、地域農業振興計画の樹立と実践の推進を継続

- 平成22年(2010年) 協同活動強化第12次3か年運動の計画・実践  
(平成22年～平成24年)
- 平成25年(2013年) 協同活動強化第13次3か年運動の計画・実践(実施中)  
(平成25年～平成27年)

## 協同活動強化運動基本目標の変遷

### ◎協同活動強化3か年計画（昭和52年度～54年度）

#### 基本目標

- ・組合員の営農と地域の農業を協同活動で確立する
- ・物心両面にわたる明るいやつたかな生活を協同活動で確立する
- ・組合員の協同活動に基づく農協運営を強化する

### ◎協同活動強化第2次3か年計画（昭和55年度～57年度）

～ 農が生き暮らしも生きる協同活動をすすめよう ～

#### 基本目標

- ・組合員の営農と地域の農業を協同活動により再編確立する
- ・組合員の健やかで豊かな生活を協同活動により実現する
- ・組合員の主体的な協同活動に基づく農協運営を徹底する

### ◎協同活動強化第3次3か年計画（昭和58年度～60年度）

～ ひろげよう協同の輪 ・集落営農の組織化 ～

#### 基本目標

- ・地域農業振興計画の実践で豊かな郷土づくりを推進する
- ・組合員の自主的参加による生活活動を推進する
- ・組合員の自主的な協同活動に基づく農協運営の充実強化を推進する
- ・発足20周年記念事業の実施

### ◎協同活動強化第4次3か年計画（昭和61年度～63年度）

～ みんなで進めよう、新たな協同活動への出発 ～

#### 基本目標

- ・集落営農を軸とした豊かな村づくりを推進する
- ・組合員のしあわせづくり3K運動を推進する
- ・総合力発揮をはかる経営刷新を推進する

### ◎協同活動強化第5次3か年計画（平成元年度～3年度）

～ みんなで進めよう 21世紀 新たな協同活動への出発 ～

#### 基本目標

- ・集落営農の確立と活力ある村づくりの推進
- ・組合員のしあわせづくり第2次3K運動の推進
- ・地域に開かれた魅力ある農協と経営刷新の推進

◎協同活動強化第6次3か年運動（平成4年度～6年度）

～ 福光町らしい農村・農協の創造 ～

みんなで創ろうユートピア

基本目標

- ・ 集落営農でいきいきわがむらづくり
- ・ うるおいと健康をめざす地域づくり
- ・ 組織基盤の確立と活力ある経営体制づくり

◎協同活動強化第7次3か年運動（平成7年度～9年度）

～ 新世紀をめざす協同活動の展開 ～

基本目標

- ・ アグリふくみつでいきいきわが村づくり
- ・ ふれあいを高め快適な暮らしづくり
- ・ 地域に根ざしたみんなの農協づくり

◎協同活動強化第8次3か年運動（平成10年度～12年度）

～ 協同こそ共生の礎 未来を拓く協同活動の展開 ～

基本目標

- ・ 環境にやさしい生きいき農業・農村づくり
- ・ ゆとりと豊かさのある生きいき地域づくり
- ・ みんなのよりどころとなる生きいきJAづくり

◎協同活動強化第9次3か年運動（平成13年度～15年度）

“JA福光ゆめプランPART I”

～ 農と共生のできる福光の創造 JA福光らしい組織運動の展開 ～

基本目標

- ・ 自然環境と調和ある地域農場システムづくり
- ・ 安心とうるおいのある暮らしづくり
- ・ 活力と総合力を発揮するJAづくり

◎協同活動強化第10次3か年運動（平成16年度～18年度）

“JA福光ゆめプランPART II”

～ 農と共生の世紀づくりをめざして・JA福光らしい組織運動の展開 ～

基本目標

- ・ 安全・安心な農産物を提供できる福光農業システム
- ・ 安全・安心で豊かなしあわせづくり
- ・ 経営の健全性・高度化を発揮できるJAづくり



◎協同活動強化第1次3か年運動（平成19年度～21年度）

“JA福光ゆめプランPART III”

～ 農と共生の世紀づくりをめざして・JA福光らしい組織運動の展開 ～

基本目標

- ・担い手づくりを軸とした地域農業振興と安心・安全な農産物づくり
- ・安心して暮らせる豊かな地域社会へ貢献できるJAづくり
- ・新たな事業方式による活力あるJAづくり

◎協同活動強化第2次3か年運動（平成22年度～24年度）

“安心して暮らせる地域社会をめざして”

～ 新たな協同の創造・JA福光らしい組織運動の展開 ～

基本目標

- ・地域住民との連携による地域農業の振興
- ・JAの総合性発揮による安心して暮らせる地域の再生
- ・協同を支えるJA経営の改革

◎協同活動強化第3次3か年運動（平成25年度～27年度）

“安心して暮らせる地域社会をめざして”

～ 次代へつなぐ協同・JA福光らしい組織運動の展開 ～

基本目標

- ・地域資源の未来への創造
- ・豊で暮らしやすい地域社会の実現に向けて
- ・次代と共に存立する「地域に根ざした協同組合」を目指して

## 福光農協の集落営農へのとりくみ

福光町は、石川県・岐阜県に隣接する山麓、平坦地を主とする農村地域である。

かつて加賀藩の領域であった福光（砺波地方（郷））は、年貢等の取り立てを軽微にし、自らを守るため家並みは散居、かいにゆうでカムフラージュをしていた。しかし、互の団結心、情報連絡のための集落機能は極めて強固であった。

また加賀藩であったことから、生活様式は京風に近いものが多く、人情の厚さ、助け合う習慣も非常に強かった。「ゆい」の習慣が長く続き、今日も尚その名残が多く見られる。

しかし、都市中心の社会構造への転化と混住化等により、永い間培われてきた風俗習慣（農村文化）の希薄化が加速し、大切に守られてきた集落を単位とする、あらゆる機能が低下し欠落が生じてきた。加えて若者の都市志向、農村の高齢化が担い手不足を生み、水田の粗放管理や委託が進み、地域の環境が不良化し貴重な資源が徐々に荒廃する恐れも出てきた。

この様なことから福光農協は、ことに急務とされた生産コスト削減の問題と相乗の積を得るため、昭和56年から集落営農を積極的に推進してきた。

### 集落営農の目的

1. 生産コスト（10%以上）削減
2. 集落機能の維持発展
3. 地域の環境を守り資源の有効活用

具体的には、集落営農の形体をいくつかに分け、取り組み易い方法を選択する。

- 例えば
- ・全面協業プール方式
  - ・部分協業個別方式
  - ・転作協業方式

等、その集落に相応しい形体から入り、徐々に全面協業方式に向け積み上げを行う方法を指導推進してきた。

### 目指す中身は

1. 農機具及び施設に対する過剰投資の防止
2. 作業管理の統一・協業化
3. 話し合いによる計画・実践・反省
4. 家族ぐるみの営農・行事の実施
5. 近隣及び他地域との連携強化

さて、集落営農は今日では一般的にその形体、内容について一応の理解はされているが、取り組みを始めた頃には、集落の大半が理解するまでには大変な時間と労力を費やした。農協支所長や営農指導員、時には農業改良普及員をも含め、100回以上も会議を重ねた集落もある。しかし、周辺集落の協業化に刺激され比較的楽に誕生した集落営農もある。

福光農協は、昭和41年の合併と同時に基本構想策定の中で、将来の方向として一町一農協、一農場を目指すものとした。以来、この方針に従い集落及び地域を一つの単位とする営農を模索し検討してきた結果が集落営農であり、取り組みを半とする地域農場システムの確立、ひいては一町一農場の確立である。

福光農協は、集落営農をより効率的かつ組合員に密着したものとするため、組織化実践事業を基準化し、組織化及びその実践集落には、農協独自の助成措置あるいは優遇措置を講じ、助長を促してきた。